

寒冷地での取り扱い

この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

寒冷地の運転について

■厳寒時のエンジン始動要領

- ★始動時のアクセル・ペダルの操作は、“エンジン始動について”の項を参照ください。
- ★エンジンの回転が完全に持続するまで、スターターを回してください。
- ★スターターを回し続けて約15秒経過しても始動できない場合は、いったんエンジン・スイッチをOFFにし、しばらく時間をおいてバッテリーの能力の回復をまって、再始動してください。
- ★始動しない場合にはガソリンの吸い込みすぎのことがあります。
アクセル・ペダルをいっぱい踏んだままスターターを回してください。
- ★エンジン始動を容易にするためクラッチ・ペダルを踏んでエンジンの負荷を減らしてください。

■エンジン・ウォーム・アップを行ないましょう。

- ★厳寒時、エンジンが冷えきった状態で車を走行させることは、エンジン各部に大きな負担をかけることとなります。エンジンのウォーム・アップは燃費の節約のみでなく、エンジンを長持ちさせるのに効果的です。

■ポイント

暖機運転のときエンジンを高回転のまま10分間以上放置しないでください。



■エンジンの冷えすぎを防ぐには

- ★気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。

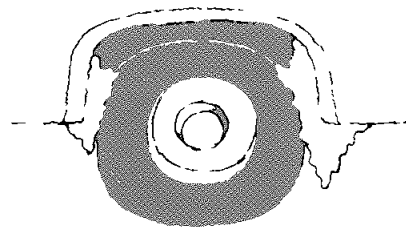
■ドア、ドア・キーの凍結時の処置

- ★ドアが凍結した場合は無理にあげようとするとドアまわりのゴムがはがれたり、き裂する恐れがありますので、湯

をかけて氷を溶かしてください。なお、あとで水分を十分ふき取っておきましょう。

■走行時の注意

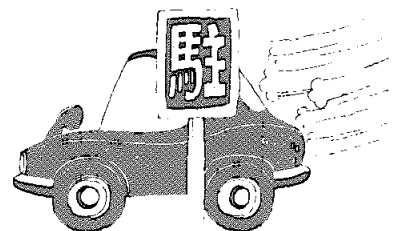
- ★乗車時、靴に付着した雪をよく落してください。アクセル・ペダル凍結防止に必要です。
- ★雪路走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して、ハンドルのきれが悪くなることがあります。時々異常のないことを確認してください。



- ★ドライブ・テクニックについては、“上手な運転のしかた”を参考に、無理をしない運転を心がけてください。

■駐車時の注意

- ★屋外に長時間駐車する場合はできるだけ車を風下に向けて置きましょう。

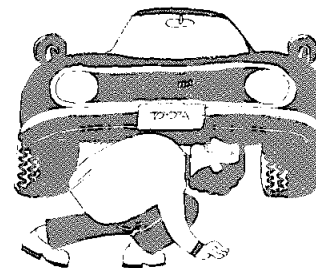


寒冷時の車の保守

■走行前の点検

寒冷時には、次の項目を仕業点検の時に実施してください。

- ★車の下をのぞいて、ステアリングのリンクやブレーキ・ホースに付着した氷塊をとり除いてください。
- ★エンジン始動時にアクセル・ペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
- ★フロント・ウィンドウの氷雪を除去する際にはワイパー・ブレードがガラスに凍結していないか確認してください。



■洗車についての注意

- ★凍結防止剤をまいた道路を走行した場合は、早めに下まわりを洗ってください。放置すると付着した塩分のため下まわりが腐蝕しやすくなります。
- ★洗車後の水切りは十分に行なってください。特にドアおよびトランク・リッドまわりに注意して凍結を防止してください。



■冬期の前後の点検，整備

★厳しい寒さと氷雪に備えて車も冬仕度が欠かせません。冬を迎える前にトヨタのサービス工場では冬期シーズン・イン点検を実施してください。

★冬期を迎えて必要な点検整備の主要項目

- バッテリー充電系統の点検，ターミナル付近の清掃
- 始動系統，点火系統の点検
- 冷却系統の点検，（ロング・ライフ・クーラントの濃度など）
- 冬期用エンジン・オイルの切り替え
冬期にはエンジン・オイルを低粘度のものに切り替えてください。
冬期エンジン始動が困難な場合は、トヨタ純正キャスル・モーター・オイル・クリーン・スーパー10W-30 または、キャスル・モーター・オイル SAE20をご使用ください。

- キャブレータ・チョークの作動点検，調整
- タイヤ・チェーンの準備
- スノー・タイヤの装着
スノー・タイヤの組合わせ使用は危険です。スノー・タイヤに取り替えるときは，4輪ともスノー・タイヤに替えてください。
- 凍結防止用・ワイパー・ブレードの装着
凍結防止用・ワイパー・ブレードは必ずトヨタ純正品を使用してください。
- ウィンドウ・ウォッシャー液を濃度50%のものと交換
- 下まわりなどの点検

★冬が終わったら，冬のために装備した部品を元にもどしましょう。
特に凍結防止用ワイパー・ブレードは夏期に使用しないでください。
なお，冬期の荒れた路面を走行した下まわりも点検しましょう。